

性差等に配慮した物資の配布

東日本大震災においては、避難所に授乳室や更衣室の設置がないなど、男女のニーズの違いが配慮されない問題や、女性用品、化粧品、乳幼児用品などの性差に応じた的確な物資の配布が行われていないと言った事例が散見された。この要因として、避難所運営に女性の参画が十分になされていなかったことが挙げられている。避難所や災害支援現場など様々な意思決定過程に女性が参画し、男女のニーズなどの違いに配慮した取組や安全・安心の確保が図られるよう、防災の現場における女性の参画拡大が重要である。

「ステーキは○で、口紅は×」？

ある団体が実施した被災女性調査によると「乾燥や炎症による皮膚のトラブル」、「衛生上の問題から生じる健康被害」が散見された。例えば、寒さや乾燥時期、避難場所での毎食の炊事などの悪環境で手の皮膚が割け、大量のカットバンも間に合わないほどだった。また、被災女性の多くがマスクをしている理由は、避難所での風邪予防や埃よけだけではなく、肌荒れや唇の荒れを隠しているという女性の視点からの事情もあることや、これらを防止するためのクリーム類などは支援物資として届きにくい状況だったこともわかってきた。『ステーキは被災者全員に配られて平等だが、化粧品は全員ではないので不平等』というのは、知られた比喻。

「心身の健康を維持するもの」

ある女性支援団体は避難所を回り、被災女性に話かけ、ニーズや課題についてヒアリングをしていたところ、生理用品やマスク以外に、避難所での毎日の食事の準備や洗濯等で手荒れが悪化してもハンドクリームなどが手に入らないため、衛生や健康上の問題が生じていることがわかった。

これを受けて、ハンドクリームや保湿クリームなどは贅沢品ではなく、乾燥や炎症から肌を守り、心身の健康を維持するために必需品であると関係者に理解を求め、基礎化粧品などニーズのあった生活必需品を配布した。また、女性だけの贅沢品と言われぬように我慢してきた口紅やヘアカットなど美容・衛生分野での支援を行った。

「活動のポイント！」

- 避難所運営など、防災の現場に女性が参画し、「女性の視点」を取り入れる。
- 例えば、「口紅をつける」ことを一例に、女性にとって日常を取り戻すことが心の安らぎ、元気になるための重要な支援になることを避難所の男性管理責任者や支援者などの関係者に周知し、理解を得ることも重要。
- 女性は自分の要望を口に出して言わない、または困っていても我慢しがちなため、避難所で女性に声をかけ、根気強く関係づくりをして、本音を聞き出す必要がある。
- ハンドマッサージ等しながら会話をすることで、被災女性の心を解きほぐし、要望や本音を聞き出しやすいようなヒアリングの方法を工夫する。

「参考事例」

- [復興庁 男女共同参画の視点からの復興～参考事例集～No.27,94](#)
- [災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～](#)